



後期前半大変お世話になりました

白水台地の陽光「さん」



後期前半は、10月17日(木)に始まりましたので、本日まで47日間、学習を行ったこととなります。47日間を振り返ってみると、いろいろな行事がありました。町の音楽会、鼻ぐり井手祭、学習発表会などがありました。各行事の取組に向けて、「子どもたちは、私たちから言われて練習するのではなく、自分たちから進んで取り組んでいます。」ということを担当からよく聞きました。各行事での、子どもたちの発表を観たときに、自信をもって堂々と表現できていたのも、そのような積極的に取り組む姿勢があったからだと思います。本当に、素晴らしい子どもたちです。

さて、本日、後期前半終了の節目にあたり、子どもたちには2つのことを話しました。1つ目はことばの暴力についてです。子どもたちの日頃の生活や様子を見てみると、楽しく仲良く遊んだり、学習したりする姿があります。しかし、一方で人を傷つけることばが使われているということですので。安心して何でも話せたり、遊んだり、助け合ったりして、みんなが楽しく過ごせる学校にするために、1人1人が自分自身の言動を振り返り、暴言をなくしてほしいと伝えました。2点目は、目標を持つことについてです。令和元年もあっという間に過ぎ、1月からは令和2年となります。新たな節目の時期に、気持ちも新たに目標を持つということは、とても大切なことです。小さなことでも良いですので、1つ決めて、目標達成に向けて努力をして欲しいと思います。南っこは、いろいろな可能性を持っている子どもたちばかりです。目標をもつこと、意欲的に取り組むこと、続けることで、さらに自信をつけることができると思います。そうなるためには、周りの関わりや言葉かけも大切です。家庭や地域で、子どもたちを温かく見守りながら励ましの言葉かけをよろしくお願いします。

後期前半、皆様方には大変お世話になりました。令和2年も皆様にとって輝かしい年であることをお祈りしますとともに、変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いします。

多文化共生の学習

菊陽町日本語指導員の庄山先生と、武蔵ヶ丘小学校の寺岡先生に来ていただき、多文化共生の授業を行いました。1・2年生が「中国の遊びを知ろう」、3・4年生が「中国の文化を体験しよう」という題材で、中国と日本文化の違い、中国語のあいさつの仕方や遊び、漢字のことなどについて話しを聴いたり、体験したりしました。子どもたちは、知らなかった中国のことについて学び、身近な国に感じる事ができました。



餅つき大会

地域の老人会と青少協の皆様のご協力により、6年生が餅つき大会を行いました。杵でお餅をつくのは、子どもたちは初めての経験でした。最初は、力の入れ方が分からなかったようでしたが、何回か続けているうちに要領が分かり、とても上手に餅つきができていました。地域の方々のお陰で、子どもたちは貴重な体験をすることができ、良き思い出づくりになりました。本当にありがとうございました。



